

✿　近畿大学附属看護専門学校　✿

大阪狭山市大野東102番地の1

3年課程（3年制）・1学年80名定員

テーマ：「看護技術項目と卒業時の到達度につなげる取り組みについて」

カテゴリー：③教育方法

令和3年4月1日に保健師助産師看護師学校養成所指定規則と看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインが改正され、令和4年4月の入学生から新しいカリュキュラムの運用を開始している。「看護師教育の技術項目と卒業時の到達度」において、標記が〈演習〉や〈実習〉となり、項目数は減少したが、必ず実施する必要性が示唆された。それに伴い、当校においても看護技術チェックノートを3年間どのように活用していくか見直しを行った。



基礎看護学実習Ⅱ（看護技術の見学、指導者とともに実施6日間）終了後の集計

基礎看護学実習Ⅲから・・・

厚生労働省が示す「卒業時の到達度」にそって、看護技術が習得できたかをチェックします

患者さんの状況に合わせて援助の経験率を

★印は…2年生の間に100%（到達すべき看護技術）	基礎看護学実習Ⅱ（指導者と実施した）	基礎看護学実習Ⅲ（A:到達できた）
設問 1:★快適な療養環境の整備（ベッドメーキング・リネン交換含む）	89.5%	
設問19:★足浴・手浴	23.7%	
設問20:★整容	39.5%	
設問23:★陰部の保清	88.2%	
設問24:★清拭	85.5%	
設問25:★洗髪	75.0%	
設問50:★バイタルサインの測定	100.0%	
設問57:★スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	100.0%	
設問58:★必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	100.0%	
設問59:★使用した器具の感染防止の取扱い	68.4%	
設問60:★感染性廃棄物の取扱い	63.2%	
設問63:★インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	0.0%	
設問64:★患者の誤認防止策の実施	21.1%	



「技術チェックノートに明記している項目と、実際のケアが結びつかない」という学生の意見を踏まえ、1年次からチェックノート配布へと変更。演習や自己練習後には必ずチェックを行い、実習へとつなげている。また、領域別実習前には、ミキシング、床上洗髪、酸素ボンベ、車いす、排液破棄、口腔ケアなど、現場に近い形で演習を行い、少しでも安心して実習に臨めるように計画!!

基礎看護学実習Ⅲ（初めての看護過程）～領域別実習の技術集計

経験だけにならず、到達率をあげていきましょう！！

★印は…2年生の間に100%（到達すべき看護技術）	到達度	到達度に達した
設問 1:★快適な療養環境の整備（ベッドメーキング・リネン交換含む）	A	98.7%
設問19:★足浴・手浴	A	73.1%
設問20:★整容	A	89.7%
設問23:★陰部の保清	A	78.2%
設問24:★清拭	A	87.2%
設問25:★洗髪	A	87.2%
設問50:★バイタルサインの測定	A	100.0%
設問57:★スタンダード・プリコーション（標準予防策）に基づく手洗い	A	100.0%
設問58:★必要な防護用具（手袋、ゴーグル、ガウン等）の選択・着脱	A	98.7%
設問59:★使用した器具の感染防止の取扱い	A	91.0%
設問60:★感染性廃棄物の取扱い	A	92.3%
設問63:★インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告	A	82.1%
設問64:★患者の誤認防止策の実施	A	97.4%

★印17項目が100%に近づいてきています！！到達できていない項目を記載してください



「患者の誤認防止策」は、基礎看護学実習Ⅱでは見学中心の実習であり、21.1%

基礎看護学実習Ⅲでは、受け持ち患者を担当しているため、意識が持て、97.4%まで上昇している。

到達率70%以上の項目（基礎Ⅲから6項目増えました）
設問13:車椅子での移送「B」
設問14:歩行・移動介助「A」
設問21:点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換「A」
設問27:点滴・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換「B」
設問29:体温調節の援助「A」
設問43:静脈路確保・点滴静脈内注射「C」
設問52:フィジカルアセスメント「A」
設問54:簡易血糖測定「C」
設問65:安全な療養環境の整備（転倒・転落・外傷予防）「B」
設問68:医療機器（輸液ポンプ、心電図、酸素ボンベなど）の操作・管理
設問69:安楽な体位の調整「B」

到達率31%～69%の項目（基礎Ⅲから9項目増えました）
設問2:臥床患者のリネン交換「B」
設問7:排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）「B」
設問8:膀胱留置カテーテルの管理「B」
設問9:導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入「C」
設問10:浣腸「C」
設問11:摘便「C」
設問12:ストーマ管理「C」
設問15:移乗介助「B」
設問18:ストレッチャー移送「B」
設問22:入浴・シャワー浴の介助「B」
設問26:口腔ケア「B」
設問35:褥瘡予防ケア「B」
設問45:薬剤等の管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）「C」
設問37:ドレーン類の挿入部の処置「B」
設問39:経皮・外用薬の投与「B」

到達率30%以下の項目（基礎Ⅲから9項目減りました）
設問3:食事介助（嚥下障害のある患者を除く）「A」
設問4:食事指導「B」

項目名と、実際に実施している援助を伝えると、学生はイメージがつきやすく、スムーズに経験できるようになった。他にも「放射線の被ばく防止策」であれば、放射線療法やレントゲン撮影の付き添い、移送は行えているか?など想起すると、技術の経験だけでなく、観察や看護展開にもつながる。

どこの看護学で必ず経験してほしいかを明確にすることで、学生は意識することができ、チェック漏れも減少した。

技術習得に向けて、ガイダンス内で到達率を数値化したものを提示すると、「2人に1人実施できているのに、自分はまだ、未経験だな」という意識になり、それが意欲となる。次の実習で到達しなければならない技術の明確化は、しなければいけないことの見える化となり、目標が具体的である。到達率が上昇すると、学年全体のモチベーションにもなり、技術の経験は、就職に向けての動機づけとなっている。

小児・母性・精神・在宅看護実習の時に必ず経験しよう

設問5:経管栄養法による流動食の注入「B」 15.4%	設問51:身体計測「B」 51.3%
設問6:経鼻胃チューブの挿入「C」 26.9%	設問65:安全な療養環境の整備（転倒・転落）「B」 92.3%
設問7:排泄援助（床上、ポータブルトイレ、オムツ等）「B」 66.7%	設問72:隔離「C」 34.6%
設問22:入浴・シャワー浴の介助「B」 65.4%	設問73:拘束「C」 57.7%
設問28:新生児の沐浴・清拭「B」 48.7%	設問74:鋏の取り扱い「A」 35.9%
設問40:座薬の投与「B」 2.6%	設問75:通信の取り扱い「C」 25.6%